

学校名	伊那小学校		
ホームページURL		www.ina-ngn.ed.jp/~inasho/	児童・生徒数 816名
(1) テーマ レッツ剛 野鳥観察 テーマの分類() 下記の欄外記載事項を参照してください。		(2) 活動の単位に○をつけてください 学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他() 該当学年 5 年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい ・日常的な野鳥観察により、鳥を中心とした自然に親しむとともに、観察から生まれた疑問を解決していく探究的な能力を養う。			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・昨年度よりの継続活動である。校舎周辺の野鳥を毎朝定刻に全員で観察し、記録している。 ・昨年度末から今年度8月に掛けては、シジュウカラ用の巣箱を自作し設置。子育ての様子を観察・考察した。自分たちがもった疑問を解決する学習をしている。 時数(200)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・学級を母体とした校内体制であるので、担任が指導している。校外でバードウォッチングをする必要性が生まれたときには、ボランティアの先生をお願いした。野鳥の会等で協力をしてくれる。			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・総合活動の時間は、週5～6時間を弾力的に運用している。本題材では、巣箱や餌台の制作で図工科、生命の発生と誕生で理科、お世話になった人へのお礼で国語(書くこと)と関連づけ学習した。また、保護者と一緒に探鳥会もおこなった。			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・本校の総合学習での評価は、個の具体の姿を丹念に見とることでおこなっている。その子の姿から、その子の求めや願いを探り、どのように乗り越えようとしているのか、どんな力を付けているのかを探っている。例えばKさんは、昨年度7月には野鳥を捕りたいと考えていたが、子育ての観察を通して、今年11月には、けがをしたウグイスを丁寧に介抱するようになってきていることから、鳥への思いの深まりが分かる。			
(8) 成果と課題 ・現在まで1年2ヶ月の野鳥観察により、子どもたちは、校舎周辺の30種類以上の野鳥を識別できるようになっている。また、観察結果を考察、科学作品展としてまとめたことで、科学的なものの見方・考え方も身に付いてきた。今後は更に、自然環境の大切さを感じられるような展開に期待している。			

テーマの分類 横断的・総合的な課題(ーア 国際理解 ーイ 情報 ーウ 環境
 ーエ 福祉・健康 ーオ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学
 校の特色に応じた課題